

10月号に掲載された米沢RCの虎井義明氏の論文、100パーセント出席クラブに聞いた出席促進策」のコピーが全員に配布され、出席向上策はすべてに言い尽されているとした。の内容は、日本全国の100%出席の208クラブに対しアンケートを出し、その結果を徹底的に調査、分析し、出席向上策を92項目にわたって丹念に提言している。各クラブのロータリアンに是非ご一読願いたいと紹介があった。B. 会員増強と職業分類について（野村）「会員増強」はロータリーが続く限り永遠のテーマであり、これなくしてはロータリークラブの活性化はあり得ないと断言した。病気、死亡による自然減が避けられない以上、年間3%以上の純増をはかることは至難なことである。しかし、クラブの活性化のため、新陳代謝、若返えりが絶対必要である。ただ、「会員増強」には「質と量」の問題が伴う。原則的には「量」が優先し、「質」がそれに伴う——という統一見解があるが、くれぐれもロータリー情報を熟知した上で勧誘して欲しいと要望があった。また、「職業分類」という枠の中で未充填部門を埋めていく場合、例えば三条市のような地場産業のように同業種が沢山ある時には、金属製品製造、金物卸、鋼材販売等、細分類化の必要があるとした。C プログラムの見直しについて（野沢）各クラブとも、おしなべて「プログラム委員会」は軽視される傾向にあるが、今一度プログラム設定の理念を考え直して欲しいと、冒頭提言があった。プログラムがクラブにどう作用しているか、クラブに果す役割は何か。早い話、早退防止のため食事と卓話の順番を入替えてみることでプログラム工夫である。プログラム立案の留意点は

①四大奉仕月間には特別卓話を用意。②クラブ員の特性、環境、職業等、レベルに合った卓話を選ぶ。③文化的な香りのするもの、品位のあるテーマに留意する。④会員増強に寄与するような楽しい例会づくり。⑤年間事業の点検。——会長、幹事や各委員長に常に確認をとるようにする。⑥「時間」の運用を大切に、／例会時間は長過ぎても短か過ぎてもいけない。

職業奉仕部会報告： 粉川昭蔵君

冒頭フォーラムリーダー藤田説量君並びにガバナー榎内悌三郎君よりそれぞれ挨拶の後、山本福七リーダーより「職業奉仕活動の在り方と問題点」について、寺田一郎サブリーダーより「会員個人の職業奉仕の実践」について、桑原寛治サブリーダーより「職業奉仕委員会の活動について」のお話と実例や、四つのテスト職業奉仕四つの反省等を分析されながら①自己本意の職業感（生活）②社会本意の職業感（他人につくす）③職業本意の職業感（仕事三昧）や、職業奉仕の四つのテーマ④労使問題⑤消費者重視⑥職業関連⑦同業者の調和等について触れ、個人奉仕の段階から社会的に繋がりある活動をする様にと要請された。又他クラブの実例として四つのテストの歌を月一回唱っていると、四つのテストと職業奉仕四つの反省を印刷した名刺を配布したとか色々報告された。続いて各クラブの職業奉仕についての活動報告を指名された順に発表された。

1、新発田城南ロータリクラブ 本年度は未定です。職場例会はやっている。 2、新潟南ロータリクラブ 個人の職業奉仕は皆んなでやっている。職場例会。 3、新潟中央ロータリクラブ 会員で私の職業と云う題で卓話。職場例会。 4、村上ロータリクラブ 職場訪問を毎年やっている。 5、新潟ロータリクラブ 自己の職業スピーチが終り次第、職業人としての懇談会を開催の

予定。高令者の就職問題点の調査。職場例会。 6、吉田ロータリクラブ 会社訪問を実行したい。 7、三条南ロータリクラブ 職場例会、会員同志の職業を通じて親睦を計る、社是社訓を提出させ会員個人の座右の銘を発表させる、四つのテスト委員会を作り四つのテストのイラストのポスターを作成し会員に4〜5枚宛配る、唯しそのポスターにはロータリのマークは入れない。

8、五泉ロータリクラブ 10月に職業奉仕の卓話をやる、職場例会、四つのテストの唱和。 9、水原ロータリクラブ 地元高校生に職業相談会を職安と話し合って実行する。職場例会。

以上を持って時間により部会は終了しました。尚三条北ロータリクラブの予定としては、10月11日三条クラブの岩井先生より職業奉仕についての卓話、職場例会は梨本会長が魚市場を交渉して下さることになっております。その他には未定ですが社会奉仕委員会にお願いして、寺泊のコロニーを訪問の際所長の卓話を予定しております。又会員それぞれの職業を報告する意味で私の営業の一つである「こんにゃく」についてのビデオがありますので、幹事の今井先生に内容の検討をお願いしてあります。合格ならば見て頂きます。

社会奉仕部会： 斎藤 正君

A 地域に於ける社会奉仕について

社会に先駆けて問題を提起し実践してゆくを基調とし団体よりも個人の立場で奉仕を考えてゆく。間口が広く財源とのからみも抱え、しかも昨今の豊かさのなかで物よりも心の奉仕の模索も必要ではないか。

B R A Cの提唱と育成について

33クラブ570人の組織が7月1日現在31クラブ465人に減少。その原因はどこにあるのか。

C 高齢者問題について

施設、老人クラブ等についての奉仕活動は可能だが、独り暮らしの高齢者に対するアプローチをいかに展開してゆくか。

国際奉仕委員会： 本間茂男君

国際奉仕の活動については、米山奨学の寄付金に関することと、青少年交換のプログラムの二点の報告にとどまり、他の活動事例の報告は我がクラブのJICA作戦のみでありました。青少年交換についての報告が大部分であって、報告書も新潟集辺のRCだけでした。このことは留学生を受け入れやすい私立の高校が集中している大都市のクラブだから交換をやりやすいという理由があるといえそうですが最近な、県立の高校も受け入れることに前向きになっている傾向が非常に見受けられるので全てのクラブにチャンスがあるから、1年間交換留学受け入れについて準備してほしいという話がありました。又、来年度から夏季交換学生の受け入れ先が、アメリカ西部から西ドイツに変更される可能性が非常に高いと報告されました。その理由は、アメリカが日本からの留学生を引き受けたがらなくなっているからだそうです。つまり、アメリカからの受け入れ先の第一希望がイタリアだそうで、イタリア行きにもれたアメリカの学生の第二希望が日本行きになってしまったそうであります。その理由は報告されませんでした。残念です。しかし、西ドイツも又いいでは